

分科会⑤【主題Ⅱ：道徳的諸価値と子どもの生活が豊かにつながり、考えを深める授業】

## 主体的に考え、共に高め合う児童の育成

### ～きくことから思考を深める授業づくり～

香川県観音寺市立大野原小学校 教諭 安藤 智紀

#### 1 主張点

- 友だちと考え方をきき合い、主体的な対話をするための支援の工夫
  - (1) 考えをきき合い、認め合う集団づくり
  - (2) 児童の思考を可視化し、話し合いを活性化させる支援の工夫

#### 2 研究の概要

##### (1) 考えをきき合い、認め合う集団づくり

###### ア 考えをきき合い、受容する支持的風土づくり

あいづちやリレー言葉でつなぐ発表をするなど、受容的なきき方のスキルを高め、安心して発言できる集団づくりをめざす。また、授業や朝の活動「きき合いタイム」を通して、考え方をきき合う活動の充実を図る。

###### イ 語り、きき合い、道徳的価値に迫るための支援の工夫

授業では、①自分の考え方をもつ時間②友だちの考え方をきく時間③自分と友だちの考え方を比べ、自分の考え方を深めたり広げたりする時間を取り入れている。児童一人一人の実態を把握しながら道徳的価値に迫る発問や問い合わせとなるよう、支援の工夫をしている。

###### ウ 自己の生き方について考え方を深めるための振り返り

振り返りの時間に授業できき合ったことや自分の普段の生活を振り返りながら、「学習のふりかえり」を行う。

##### (2) 児童の思考を可視化し、話し合いを活性化させる支援の工夫

###### ア 自己を見つめるための指導の工夫

日常生活における自己を見つめるために、アンケート結果から教師が児童の実態を把握し、授業づくりをする。また、思考ツールで児童の思考を可視化し、自分自身の心を見つめることができるよう工夫していく。

###### イ 多面的・多角的にきき合うための指導の工夫

役割演技やモニタリングなどの議論することを通して、多面的・多角的な考え方をきき合うことができるよう指導の工夫を行う。また、ICTを有効に活用し、児童の思考を可視化し、友だちの考え方をきくことで自分の考え方を広げたり深めたりしていく。

#### 3 研究の実際

##### (1) 考えをきき合い、認め合う集団づくり

###### ア 考えをきき合い、受容する支持的風土づくり

###### ① 受容的なきき方（うなずきやあいづち、肯定的なきき方）

友だちの発言に対して「ああ（共感）、いいね（賛成）、うん？

（聞き返し）、えっ（おどろき）、おお（感動）」など、「あいづちあいうえお」を意識してきくことに取り組んでいる。話している児童が反応しながらきいてくれることで相手意識をもって話すことができる。また、きいている児童は、きくことに集中できる。うなずきや肯定的な言葉を述べることも効果的である。

あいづち「あいうえお」				
ああ！	いいね	うん？	えっ！	おお！
きょうかん	さんせい	ききかえし	かんどう	
共感	賛成	聞き返し	おどろき	感動



【発表する人の方を向いてあいづち】

発表後、あいづち等の友だちの反応があると、「発表してよかったです。」と喜ぶ児童が多く、発表に対する意欲が高まりつつある。継続することで、難しい問題に対してもチャレンジでき、自信につながっていると感じる。

## ② きき合う活動の充実

### ・ 朝のきき合いタイム

月に2回、朝の時間に「きき合いタイム」を行っている。自分の考えをもち、友だちに伝えることや友だちの考えを聞いて自分の考えとのちがいに気付くことを大切にしている。振り返りでは、「きき合うことが好き」と答え、きき合うことを楽しみにしている児童が多い。また、友だちの考えのよさに気付いたり自分の考えが広がったという感想が出てきたりしている。



【ペアで理由をきき合う】



ちがう考えをきいて、自分にない考えだったので、きけてよかったです。

【立場に分かれて考えの交流を行う】

### ・ 授業でのきき合い活動

きき合い活動とは、「グループメンバーの一人一人の考えを伝え合い、きき合い、質問や意見交流を通して自分の考えをより明確にする活動」である。ペアやグループ、全体など、学習形態も工夫し、考えの交流を行っている。また、授業研究の際には、学習指導案上に、黒太枠で囲み、明記することで、児童のきき合い活動や教師の支援が適切であったかどうかを研修している。



## 【5年『手品師』】

考 え る	2 「手品師」を読んで、話し合う。 ①自分が手品師だったらどうするかを考える。 ・自分の手品で男の子を元気にしたい。 ・夢を実現したい。 ・夢を叶えたいけど、約束を守りたい。	○ 教師による朗読を行う際に、手品師が決断する前までを朗読する。 ☆自分ならどうするかを考え、立場を5段階で表し、MetaMojiを使って自分の立場を明確にする。その際に、選んだ理由を大切にするように促す。
	②手品師は、なぜ大劇場ではなく男の子を選んだかを考える。 ・男の子の笑顔が見たいから。 ・男の子との約束を守りたい。 ・多くの人の前で手品を見せるよりも、なにか意味があるのかもしれない。 (3)もし、手品師が大劇場にいっていたらどうなっていたかを考える。 ・成功して、有名になった。 ・夢がかなって嬉しい。 ・あの男の子がどうなったのだろうと心配になる。	
	④手品師は迷ったときに、どんなことを大切にしたのかをペアで話し合う。 ・「誠実さ」や「充実感」 ・自分自身に、正直な気持ち。	
學 び 合 う	⑤「誠実さ」とはどんなことかを考える。 ・正直な気持ち。 ・自分自身に嘘をつかないこと。	○ 後半部分を朗読し、手品師の心の葛藤を考えさせる。この時、単に先に交わした約束を守らなければならないから男の子を選んだのではなく、手品師自身が納得した生き方として男の子を選択したことには気付かせる。 ○もし、大劇場を選んでいた場合、大劇場での手品が成功して有名になってしまったかもしれないことを気付かせ、その場合でも自分の気持ちに正直になつていれば悔いはなく、誠実であるのかを考えさせる。 ○ペアで話し合い、手品師は迷った時に大切にしたことは何かを話し合せ、道徳的価値を表出させたい。
振り 返 る	○自分の気持ちに正直になり決定することが誠実さだということを紹介し、振り返りにつなげる。	

## イ 語り、きき合い、道徳的価値に迫るための支援の工夫

授業では、次の3つの時間を取り入れるようにしている。

- ① 自分の考えをもつ時間
- ② 友だちの考えをきく時間
- ③ 自分と友だちの考えを比べ、自分の考えを深めたり広げたりする時間

児童一人一人の考えを把握しながら授業を展開し、児童の実態に沿った授業になるように努めている。また、道徳的価値に迫る中心発問や補助発問、問い合わせとなるように教材研究に取り組んでいる。

さらに、児童に3つの価値「人間理解（人間の弱さに対して注目する。）」「他者理解（様々な価値観を意図して考える。）」「価値理解（どんなことを考え、どんなことに気付くか。）」について考えられるようにしている。

① 話型やリレー言葉を生かしたつなぐ発表の紹介

② 道徳的価値に迫るための手立て

- 役割演技

わがままを言わないで、みんなの言うことをきけばよかつた。



【1年「かぼちゃのつる】

### 道徳的価値に迫る

つるがきれてしまったかぼちゃの気持ちを、役割演技を通して語る。その際に、わがままな行動によって、自分に困ったことが起きてしまったことに気付き、本時の道徳的価値に迫る。

- 小集団での議論

わがまま言わなかつたらつるが切れなかつたのにな。



わたしは、「自分勝手なことはしてはいけないよ。」と教えてあげたいな。

【グループ活動】

### 道徳的価値に迫る

少人数の中で自分の言葉で語る場を設けることによって、自分の意見に自信をもつことができる。また、友だちの考えを聞いて自分の意見と比較したり、考えを深めたりすることができる。

- 板書の工夫



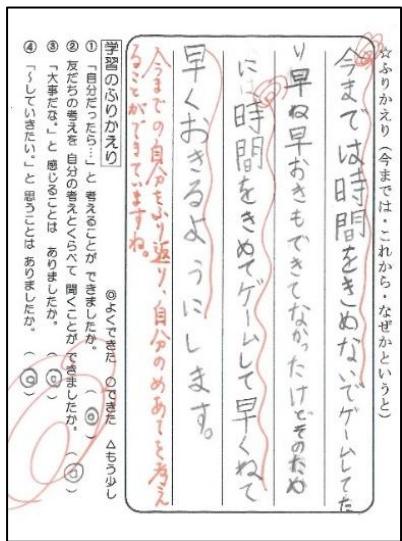
【1年「かぼちゃのつる】

- 友だちの意見を「きいて」語る振り返り

友だちの発表を「きいて」これから自分の自分について考え語る。本時の授業では、かぼちゃさんに伝えたい言葉を「きいて」考え、「これからは周りの人の言うことをしっかり聞きたい。」と自分について語ることができた。

## ウ 自己の生き方について考えを深めるための振り返り

授業の終末に授業できき合ったことや自分の普段の生活を振り返りながら、「学習のふりかえり」を行う。また、「『自分だったら』と考えて学習ができましたか。」など、ワークシートやICTを活用して短時間で自己評価が行えるようにしている。



【ワークシートでの振り返り】



【ＩＣＴでの振り返り】

## (2) 児童の思考を可視化し、話し合いを活性化させる支援の工夫

### ア 自己を見つめるための指導の工夫

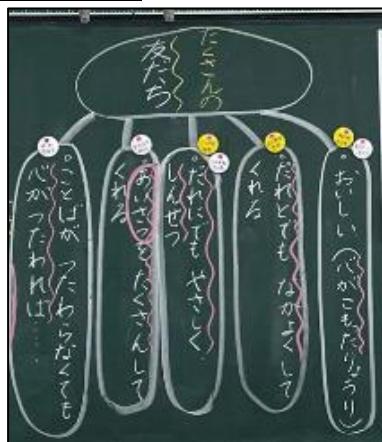
#### ○ 普段の生活での自分と本時の授業を結びつける工夫

授業の導入部分で、事前にとったアンケート結果や実際に起こった出来事やトラブルを提示し、より自分事としてとらえられるようにしている。

#### ○ 思考ツールの活用

思考ツールを活用し、児童の考えを書き出した。自分の考えや友だちの意見を可視化することで分かりやすく整理することができ、思考を広げたり、思考の組み立てをサポートしたりすることに効果的である。

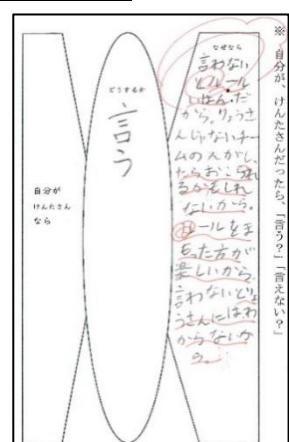
クラゲチャート



【2年「青いアルバム】

挨拶の大切さを理解できるように、外国人の人たちやその友だち・家族がお店に集う理由を考えた。その際、くらげチャートを用いて、外国のお客さんに対する、挨拶名人えいちゃんの行動や人間性に目を向けるよう助言し、道徳的価値により迫ることができるようにした。

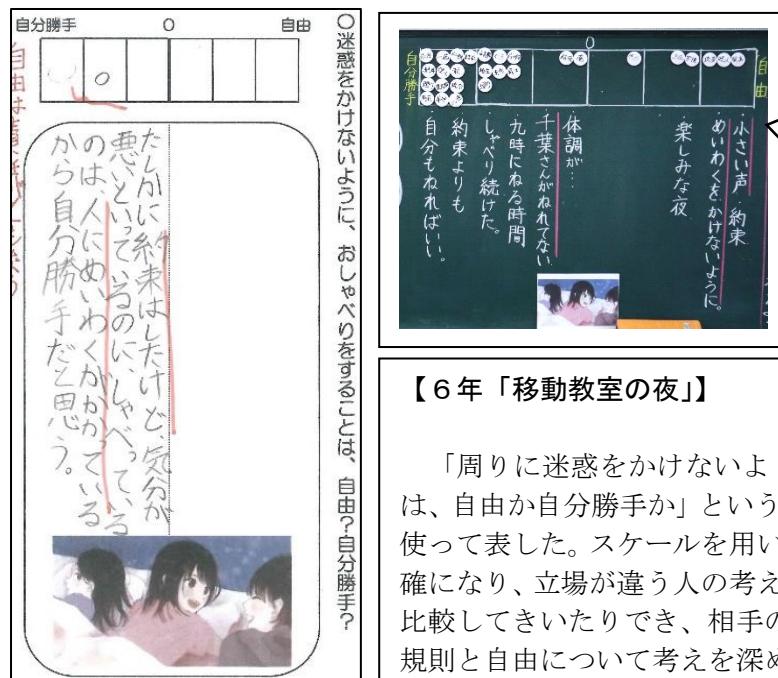
キャンディチャート



【3年「しんばんは自分たちで】

審判をしていたぼくは、友だちがコートの外に出たのに笛を吹くことができなかった。そのときの気持ちを話し合った後、キャンディチャートを用いて、「自分だったら『言う(注意する)』か『言わない(注意しない)』か」を「なぜなら」と理由をつけて話し合った。

## スケール



### 【6年「移動教室の夜」】

「周りに迷惑をかけないようにおしゃべりをすることは、自由か自分勝手か」という自分の立場を、スケールを使って表した。スケールを用いることで、自分の立場が明確になり、立場が違う人の考えを知ったり、自分の考えと比較してきたりでき、相手の立場や状況に焦点を当て、規則と自由について考えを深めることができた。

#### イ 多面的・多角的にきき合うための指導の工夫

- 一人一人が自分の考えを持ち、きき合い、考えを広げたり、深めたりできる場面を設ける授業づくり

#### 【1年「はしの上のおおかみ」での実践】

- 1 主題名 しんせつにすると気持ちがいい【B しんせつ、思いやり】

- 2 教材について

主人公のおおかみが、一本橋で出会ったうさぎ、きつね、たぬきたちを相手に面白がって意地悪を続けるが、大きなくまの優しい心に触れたことで、自分のこれまでの行いを振り返る話である。周りの人に親切をすることで、相手も自分自身が気持ちよくなることに気付くことができる内容である。

#### ・ きき合い活動

考 え る	2 おおかみの気持ちを考える。 (1) 通せんぼをしている時の気持ちを考える。 ・ おおかみは、意地悪をしていて楽しそうだなあ。 (2) 熊と出会い、後ろ姿を見た時の気持ちを考える。 ・ 熊って優しいなあ。 ・ おおかみは、今まで自分がしたことを反省するね。 ・ 次は、動物たちに優しくしてあげようと思っていると思うよ。	○ おおかみが、自分より小さい動物たちにいじわるをして言った「えへん、へん」にこめられた気持ちを発表させる。 ○ 熊と出会った時のおおかみの気持ちを言葉で整理することで、おおかみが相手によって態度を変えていることに気付かせる。 ○ 熊が、おおかみに親切に接していることに気付かせる。教師がくまになり、おおかみ役の児童を抱き上げて反対側に渡り役割演技を行って親切にされる喜びに気付かせる。 ○ 熊に親切にされたおおかみの気持ちをワークシートに記入し、ペアで話し合う。その後、全体で話し合わせることで、おおかみの気持ちの変化に気付かせる。 ☆ Metamoji を活用して、自分より小さい動物に対して言った「えへん、へん」にこめられた気持ちを表情で描かせる。 ☆ 想像した表情を全体で共有し、おおかみの気持ちを言葉や表情で整理する。 ○ 親切にすると自分も相手も嬉しい気持ちになることを押さええる。 ○ 児童同士で、おおかみ役と動物役の役割演技をペアで行い、親切にする喜びを全体で確認する。
	3 おおかみが親切にした時の気持ちについて考える。 (1) 始めと終わりの「えへん、へん」の違いを考える。 (2) 前よりずっといい気持ちになつたのはどうしてかを考える。 ・ 親切にしてあげることが、おおかみにとっても嬉しいことだったんだね。	

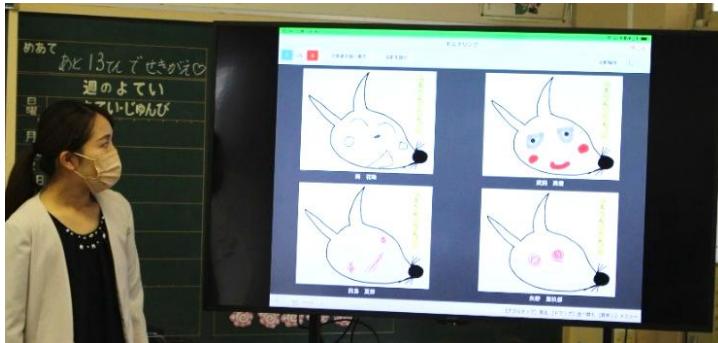
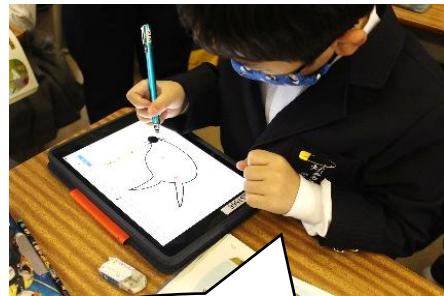


やさしくしてくれてうれしいな。

どうしてきつねさんたちにあんなことをしてしまったのだろう

#### ・ ICT の活用

文字を打つことや書くことが難しいため、低学年の発達段階に合わせたタブレットの活用方法として、おおかみがくまに出会った後の表情を描く活動を取り入れた。おおかみの輪郭を教師が作成して提示し、目と口だけをアプリケーション(Metamoji)で描けるようにした。このような表情を考える活動を取り入れることで、おおかみのはじめとあとの気持ちの変化を視覚化し、言語化する際の大きな支援となった。



【モニタリング】

いいことをしたから、  
うれしい顔かな。

友だちの描いた表情を見ることで、自分と似たおおかみを見て安心したり、違った表情から考えを深めたりすることができた。

- 立場を明確にして意見の交流を行い、自分の考えと友だちの考えを比較しながら、きき合い、考えを広げたり、深めたりできる場面を設ける授業づくり



【4年「雨の日の停留所】

ネーム磁石で立場を明確にさせ、話し合いを行った。自分が主人公の立場だったら、バス停で「先頭に並ぶか」、「順番に並ぶか」について、理由をつけて話し合い、同じ立場の友だちとも理由のちがいに気付くことができた。

## 5 研究の成果と課題

- 対話を重視したきき合い活動を積み重ねることで、児童がペアやグループでの「話す」活動や「きいて考える」活動に少しずつ慣れてきている。自分の考えと友だちの考えを比べたり、つなげたりする経験から、意識を高めることができるようになってきた。また、友だちの考えをきいた後、「同じで」、「似ていて」等のつなぎ言葉やリレー言葉を使うことで、児童同士でつないだり、自分の考えを広げたり深めたりすることができるようになりつつある。
- 児童が思考を整理するために、思考ツールを使ったり、ICTを活用したりする機会が増えてきた。スケールやキャンディチャートを使って、自分の考えを表したり、ICTのモニタリング機能やアンケート機能を使い、児童の考えを全体に表示したりすることで、多面的・多角的に考える活動の在り方を構想し、高めることができた。
- 児童の実態や意識に即した授業を行うために、事前のアンケートを生かしたり、児童の発達段階を考慮した学びの在り方を話し合ったりしながら、教員間で共通理解し、授業に取り入れていく。
- 友だちとの様々なきき合いの場で自分の考えを話したり、書いたりできるようになってきているが、まだまだ自分の本音を語ることが難しい児童が多い。自分の考えを十分まとめられない場合でも、自分の本音が語れるように支援をする必要がある。
- どの内容を、どのように学び合うかについて教材研究を深める必要がある。そのために、思考ツールを活用する際に、適切な思考ツールを選ぶ研究も深めていきたい。